

1. めざす学校像

- 建学の精神「力の教育」を継承、発展させていく「伝統と革新」の学校。
- 建学以来の「自学主義」に基づき、児童自らが学ぶ力を育てる学校。
- 建学以来のネイティブ教員による英語授業を継承・発展させ、グローバル社会で活躍できる人物を育成する学校。
- 臨海学舎をはじめとした多くの伝統行事を実施し、体力や生活力を育てる学校。
- ホンモノの教育を志向し、能や歌舞伎などの日本の伝統文化への理解を深める学校。

2. 中期的目標

- (1) 教育力の強化。
 - 教員の授業力の向上。
 - 児童への学力保障と、進路の保障。
 - 生活指導の強化。
 - ICT教育の強化
 - 学校行事の見直し
- (2) 組織力の強化。
 - 保護者との連携
 - 校務分掌の改変、整備。
 - 児童情報に対する教員連携強化。
- (3) 財務基盤力の強化。
 - 併設中学校への進学率向上。
 - 定員の充足。

3. 自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価の結果と分析

自己評価アンケートの結果と分析	学校関係者評価の結果と分析
<p>特に評価が高かった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> • 七夕、臨海、体育祭、音楽会などの学校行事は活発である。 • 体力テスト、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。 • 図書館の利用促進など読書指導に取り組 	<p>特に評価が高かった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学校は、アレルギー児童に対して保護者への事前調査、教員の研修などを行い、対応食の提供や緊急時の対応について準備している。 • 学校は、充実した学校行事を送っており、

自己評価アンケートの結果と分析	学校関係者評価の結果と分析
<p>んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> クラブ活動は活発に行われている。 <p>相対的に評価が低かった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼小中教員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。 教員全体が、評議員会、理事会の役割や機能について理解している。 教職員会議をはじめ各種会議が有効かつ効率的に機能している。 	<p>自主性の育成に役立っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> P T A行事や授業参観は、適切な頻度で行われ、学校の様子をうかがい知る機会として、機能している。 学校給食は、衛生的で、栄養のバランス面において充実している。 <p>相対的に評価が低かった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校は、中学校進学に関する情報を提供するなど、進学指導を適切に行っている。 小学校と中学校は連携できている。 幼稚園と小学校は連携できている。

※ 学校関係者評価は、全保護者を対象にアンケート調査を行っており、その結果を分析している。選択肢式だけではなく、自由記述欄も設けており、その結果も分析し、全教員に周知するとともに、関係部署で対策を講じるようにしている。なお、アンケート結果は、HPに公開している。http://www.tezukayama.ac.jp/grade_school/hyoka/pdf/enquete2017.pdf

学校関係者評価委員会からの意見

○ 学校の連携について

幼稚園から、高等学校まで、お互いの連携をさらに深め、保護者が望む学院の方向性に向け、さらに邁進していただきたいと思う。ちなみに P T A では、幼稚園から、高等学校までの間で、P T A 役員間の連携に取り組みを始める。

[改善] 年間行事を計画する段階から、連携をさらに深め、円滑で、効果的な学校運営を行う。

○ 進学指導について

内部進学に関しての情報を 1 年生の保護者も入手できるように、今以上にオープンにしたり、相談や質疑応答の場を設けてほしい。また、併設中学校への学力のサポートを進めてほしい。

[改善] 進路ガイダンス等の適切な実施を計画し、実施する。少人数制の学習体制や、フォローアップのシステムを確立する。

○ 有事の対応について

最近、前例のない天災に相次いで見舞われ、それぞれの家庭へ、判断と責任を委ねることが、必要になってきた。今後、「児童生活のしおり」（きまり集）の見直しや、「ミマモルメ」（IC タグシステム）での情報を通常よりも強く意識してもらうことが重要になると考える。

〔改善〕児童生活のしおりを見直すとともに、学校としても、正しい情報を入手し、迅速な対応情報を随時発信していく。

○ 学院の今後の方向性について

すばらしい歴史、体制が整っているので、先生がたは、学院としての一貫した理念を持って、指導にあたってほしい。行事や給食、安全などについても、高い評価なので、このまま継続していただきたい。

〔改善〕学院の教育理念を再確認し、教職員が、一丸となって、質の高い教育を提供していく。

4. 本年度の取組内容、及び自己評価

中期的目標	本年度の重点目標	具体的取組内容	評価指標	自己評価
教育力の強化	教員の授業実践力向上。	初任者研修 研修会、研究授業の充実	自己評価アンケートの結果の高評価が80%以上。	初任者研修については、月1回の頻度で実施。自己評価アンケートにおいても、「初任者研修」については、79%が高評価。 自己評価アンケートにおいても「教員の資質向上」に関しては、66%が高評価であった。今後、主要教科に焦点を当てた研修を整備・実施する必要がある。
	児童の学力保障、進路保障体制の確立。	学年ごとに補習を実施するなど学力の保障を図る。 各種検定の取得目標の設置と、指導法の策定。	自己評価アンケートの結果、高評価80%以上。 学校関係者評価の結果、高評価80%以上。	自己評価アンケートの「学習指導について」は、83%が高評価。学校関係者評価では、「学校は基礎学力をつけている」という設問に86%が高評価。ただし、「今後、もっと積極的に取り組んでほしい教育活動」としては46%の保護者が「学習指導の充実」を挙げており、学習指導のさらなる充実が必要。 各種検定については、今後、実際に受検した児童の結果をうけて、指導法を改善していく。

中期的 目標	本年度の 重点目標	具体的取組内容	評価指標	自己評価
	生活指導の強化	挨拶の指導の徹底。 生徒指導部を中心とした情報の集約と、全教員で情報を共有して一致した生徒指導の実施。	自己評価アンケートの結果、高評価 80%以上。 学校関係者評価の結果、高評価 80%以上。	学校関係者評価においては、「児童は、けじめのある生活を送り、仲良く楽しく活動している」が、92%の高評価。「子どもたちは、安全に登下校でき、安全な学校生活を送っている」が 91%の高評価。「生活指導（しつけ）の充実」を挙げた保護者が 35%であった。また、自己評価アンケートの「児童の生活指導に学校の一貫した方針に従い、組織的に対応している」は、68%が高評価。組織的な生徒指導の方法の確立が必要。
	ICT 教育の強化	ICT 教育のカリキュラム作成と研究授業の実施	自己評価アンケートの結果、高評価 80%以上。	自己評価アンケートの「児童の発達段階、課題や目的に応じて情報手段を主体的に活用している」が 86%が高評価。順調に実施できているので、今後も継続する。
	学校行事の見直し	行事予定の見直しと各行事の運営見直し。	自己評価アンケートの結果、高評価 80%以上。 学校関係者評価の結果、高評価 80%以上。	「七夕、臨海、体育大会、音楽会などの学校行事は活発である」が 93%の高評価。「保護者は、PTA 主催の保護者向け行事・講演会や学年 PTA（保護者会）等に積極的に参加・協力している」が 95%の高評価。順調に実施できているので、今後も継続する。

中期的 目標	本年度の 重点目標	具体的取組内容	評価指標	自己評価
組織力 の 強化	保護者との連携	個人懇談の充実。 参観授業の充実。	自己評価アンケートの結果、高評価 80%以上。 学校関係者評価の結果、高評価 80%以上。	自己評価アンケートの「授業公開状況」については、79%が高評価であった。学校関係者評価では、「PTA行事や授業参観等は、適切な頻度で行われ、学校の様子をうかがい知る機会として機能している」が95%が高評価。「学校は、教育方針や教育実践をホームページ・配布物等でわかりやすく伝えている」が92%の高評価であった。保護者との連携は一定程度達成しているものと見なせるが、今後、一層の連携強化を図る。
	校務分掌の改編、整備。	校務分掌部長会議を設定。部会間の連携と、職員会議の円滑な運営を図る。	自己評価アンケートの結果、高評価 80%以上。	自己評価アンケートの「校務分掌」に関しては、70%が高評価であったが、前年度比で2ポイント減であった。ただし、「会議の有効性」については、高評価 58%は、前年度比 38ポイント増であり、一定の組織力強化は達成できた。次年度以降、さらに適正な分掌構成を築く必要がある。
	児童情報に対する教員連携強化	学校生活支援会議と学年主任会を設定し、運営。	自己評価アンケートの結果、高評価 80%以上	自己評価アンケートの「学年担当の教員が、協力し合い、学年目標に向かって教育活動の充実を図っている」が95%が高評価。また、「教職員会議をはじめ各種会議が有効かつ効率的に機能している」が89%の高評価。

中期的 目標	本年度の 重点目標	具体的取組内容	評価指標	自己評価
財務 基盤 力の 強化	併設中学校への 進学率向上。	内部進学に関する情報の提供。 進路ガイダンスの実施。	内部進学率。男子 26%、女子 73%。	男子内部進学率 26% (前年度 30%)。 女子内部進学率 73% (前年度 72%)。 微増、微減はあったものの全体として大きな変化はなかった。進路ガイダンス等の一層の充実と、進路保障のための補習等を実施していく必要がある。
	定員の充足	募集広報活動の充実	定員充足 100%	定員 114 名のところ 106 名入学。(充足率 93%)

※ 自己評価アンケート、及び学校関係者評価の「高評価」「低評価」とは、それぞれ各設問に対して「達成できている」「ほぼ達成できている」の2つを合わせて「高評価」、「あまり達成できていない」「まったく達成できていない」の2つを合わせて「低評価」とした。